

横乗り車椅子／ラクーネ 2

KY-360

取扱説明書

この度は弊社製品をお買い上げいただきありがとうございます。
正しく安全にお使いいただくため、ご使用前にこの「取扱説明書」を必ずお読みください。
尚、この「取扱説明書」には「保証書」が付いております。
取扱説明書の内容、及び保証書の内容がいつでも確認できるよう、大切に保管してください。

目次

はじめにご確認ください	2	フット・レッグサポートの開閉・取り外し	1 1
使用目的	2	アームサポートを上げた場合の乗り移り	1 2
特徴	2	その他の乗り移り	1 4
安全上のご注意	2	各部の調節のしかた	1 5
各部のなまえ	6	使用上のご注意	1 6
使いかた	7	困った時には	1 8
ブレーキのかけかた	7	ご使用期間とアフターサービスについて	1 9
開きかた／たたみかた	8	仕様	1 9
シートの取り付け/取り外し	9	保証書	裏表紙
アームサポートの跳ね上げ	1 0		

本書で使用しているイラストは、ご購入いただいた製品と異なる場合があります。



■本社・松山営業所

〒791-0214 愛媛県東温市南野田 410 番地 6

TEL089 (964) 7770・FAX089 (964) 1522

■仙台営業所

〒984-0031 宮城県仙台市若林区六丁目柳堀 8-1

TEL022 (390) 4605・FAX022 (288) 3690

■東京営業所

〒173-0014 東京都板橋区大山東町 10-6

TEL03 (5248) 2541・FAX03 (5248) 2542

■名古屋営業所

〒485-0012 愛知県小牧市小牧原新田 1660-3-D

TEL0568 (42) 6015・FAX0568 (71) 9656

■大阪営業所

〒567-0072 大阪府茨木市郡 5 丁目 31-54

TEL072 (641) 8711・FAX072 (641) 8712

■福岡営業所

〒839-0814 福岡県久留米市山川追分 1 丁目 4-4

TEL0942 (45) 3808・FAX0942 (45) 3809

■北海道エリア特約店

〒064-0919 北海道札幌市中央区南十九条西 6 丁目 3 番 5 号

TEL011 (531) 1315・FAX011 (531) 1346

エア・ウォーター・ハローサポート株式会社

はじめにご確認ください

本製品ご購入後には、はじめて梱包箱をあけるときの、下記のものが入っていることを確認してください。

- 車いす本体 *1ケ
- 背アウターシート *1ケ
- 座アウターシート *1ケ
- 取扱説明書 兼 保証書(本書)
- 工具(スパナー2ケ 六角レンチ5mm・4mm・3mm各1ケ)

ご使用前の準備は、下記のページをお読みください。

- 開きかた P8、1～4項
- シートの取り付け P9、1～4項

使用目的

本製品は手動式車いすで、一人乗り用です。
これに搭乗しての移動と、休息を目的としています。

本製品は、使用者がハンドリムを操作して駆動する手動式の自走用標準型車いすです。日常生活用に設計されており、特殊な使用目的(スポーツ・入浴など)のものではありません。

車いすの機能はそのまま、車いすからベッド等への移乗の際に、側面が開放されトランスファーボードが車いすとベッド等への橋渡しをしてくれるため、介護者や利用者の労力を軽減します。

特徴

- アームサポートを引き上げるだけで駆動輪が後ろに移動し、側面が開放されますから、横からの乗り降りができます。
- 駆動輪が後ろに移動すると、駆動輪がロックされます。
- 側面の開放は左右どちらからでもできますから、乗り降りの方向を選びません。
- 側面の開放により、利用者お一人での移動はもちろん、介護者も大変楽になります。
- トランスファーボードが車いすとベッドとの橋渡しをしてくれるため、安心して横への移動ができます。
- フット・レッグサポートフレームの取り外しができますから、ベッドへの正面からの移動ができます。また、移乗の際に邪魔になりません。
- 使用しない時は折りたたむことができます。フット・レッグサポートの取り外しをすれば、さらにコンパクトになります。

安全上のご注意

ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。この取扱説明書では、お使いになる人や他の人への危害・物的損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを次の表示と記号を使って説明しています。表示と記号の意味をよく理解したうえで本文をお読みください。

【表示の意味】

	危険	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが予想される内容を示しています。
	警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、重傷を負う可能性が予想される内容を示しています。
	注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性および物的障害の発生が想定される内容を示しています。

【記号の意味】

	警告・注意を促す内容があることを告げるものです。
	禁止の行為であることを告げるものです。
	行為を強制したり指示する内容を告げるものです。

危険



スピードを出さないでください。

スピードが出ているときに急カーブを走行したり、急ブレーキをかけたりすると、転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。



急な下り坂で介助するときは、後ろ向きにゆっくり降りてください。また、制動用ブレーキレバーを使いスピードを落としてください。



自走用であっても自力で操作不可能な坂道では、介助者を伴ってください。

警告



乗り降りの際にはフットサポートに乗らないでください。
駆動輪が浮き上がり、転倒する恐れがあります。



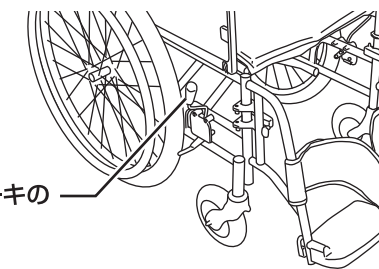
乗り降りの際および停止時には、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。
ブレーキがかかっていないと車いすが動きだし、衝突や使用者の転倒事故につながる恐れがあります。ブレーキレバーは、ブレーキレバーが止まる位置まで確実に操作してください。



アームサポートを跳ね上げて乗り降りする際は、アームサポートを最後まで跳ね上げ、跳ね上げた側の駆動輪が固定されていることを確認してください。



乗り降りの際にはブレーキレバーに体重をかけないでください。
レバーが破損・変形し、転倒する恐れがあります。



駐車用ブレーキのレバー



走行中にアームロックレバーを解除しないでください。



各部を調整する場合は平坦な場所で行ってください。
車いすが動きだし、事故やけがにつながる恐れがあります。



アームサポートを跳ね上げた状態で走行しないでください。
使用者が車いすから落ちて、事故やけがにつながる恐れがあります。



アームサポートを戻した後は、必ずロックされたことを確認してください。
使用中に外れると、事故やけがにつながる恐れがあります。



フット・レッグサポートを開いた状態で走行しないでください。
事故やけがにつながる恐れがあります。



フット・レッグサポートを戻した後は、フット・レッグサポートが完全にロックされたことを確認してください。
事故やけがにつながる恐れがあります。













乗り降りの際に、上げたフットサポートに足が当たらないよう注意してください。
けがをする恐れがあります。










乗り降りは、必ず平坦なところで行ってください。
















警告

-  使用する前に、両側の背折れジョイントが確実にロックされていることを確認してください。
ロックされていないと、使用者が後方に転倒する恐れがあります。
-  アームサポートやフット・レッグサポートを持って車いすを持ち上げないでください。
アームサポートやフット・レッグサポートのロックが外れ、けがをする恐れがあります。
-  車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。
坂道等の傾斜のある場所では、駐車用ブレーキを使用しても車いすが動く場合があります。転倒など事故につながる恐れがあります。
-  アームサポートの跳ね上げ、下ろし操作を行なう際は、アームサポートパイプ・駆動輪の可動部に身体・衣服等をはさまないように注意してください。
-  トランスファーボードを利用する場合、移乗時にトランスファーボードのたわみとベッドのクッションにより多少不安定になります。
転落の危険性もありますので、移動は慎重に行ってください。
-  手押しハンドル、本体フレームおよびバックサポートのポケットに重いものを吊り下げたり、入れたりしないでください。
過度の荷物はバランスを崩し、転倒する恐れがあります。
-  車いすの分解、フレーム構造を変更するような改造は行わないでください。
製品の強度や耐久性が損なわれ、転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。
-  車いすからベッド、またはベッドから車いすへ移動をする際は、車いすをベッド側面にできるだけ寄せて、トランスファーボードとベッドマットとの重なりを多く(トランスファーボードの約1/3の60mm以上)とるようにしてください。
-  トランスファーボードを利用する場合、移乗時に、フットサポートに足を乗せたまま踏ん張らないでください。
転倒の恐れがあります。安全のため、フットサポートを外すか起こしてから移動してください。
-  トランスファーボードを利用する場合、マットレスがふわふわし過ぎず、端座位が安定するものをご使用ください。
(エアマットレスの場合は空気を抜いて移乗してください。)

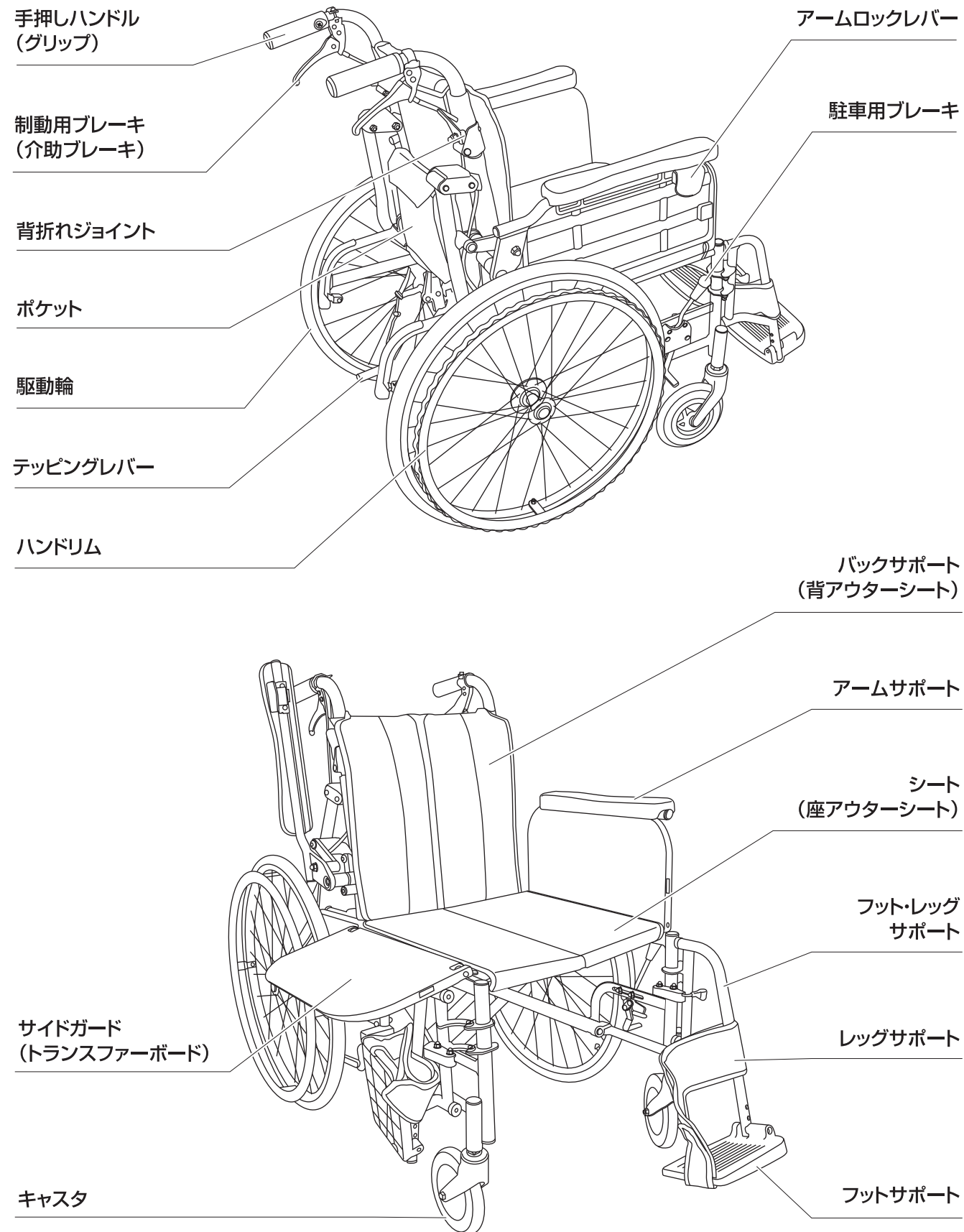
注意

-  この車いすは一人用です。二人以上の乗車や、目的以外での使用はしないでください。
-  最大体重(積載物も含む)は100kgになります。体重制限を守って使用してください。
-  車いすをたたむときは、シートパイプを握らないでください。
手をはさみ危険です。

-  アームサポートを跳ね上げて乗り降りする際は、アームサポートを最後まで跳ね上げたことを確認してから行ってください。
アームサポートが身体、衣服に引っかかり、けがをする恐れがあります。
-  折りたたんだ車いすを開く時に、シートパイプを握って押し下げないでください。
手をはさみ危険です。


注意

-  使用者が乗車中は、背折れの操作は絶対に行わないでください。
背折れのヒンジ部分で手や腕をはさむ恐れがあります。
-  背折れジョイント、アームサポート、フット・レッグサポートなどの可動部に指や身体をはさまないように注意してください。
-  走行中、足がフットサポートから落ちないようにしてください。
-  走行中、身体を乗り出さないでください。
走行の安全を損ない危険です。
-  操作中に異常な音や振動が発生したら、即時に使用を中止してください。
事故やけがにつながる恐れがあります。
-  フットサポートを足で上げる場合は、素足では行わないでください。
けがをする恐れがあります。
-  フットサポートの下には足を入れないでください。
足を地面でこすったり、フットサポートやキャスタなどに足をぶつけてけがをする恐れがあります。
-  アームサポートを跳ね上げる際は、車いすの後方に人や障害物がないこと確認してください。
-  使用する前に駆動輪・キャスタ・駐車用ブレーキ等のネジを点検し、ゆるんでいるときは増し締めをしてください。
-  段差のあるところを上り下りするときは、車いすに衝撃を与えないように、ゆっくり上り下りしてください。
車いすの破損や故障の原因となります。
-  車いすを自動車に載せる際および自動車から降ろす際は、車いすに大きな衝撃を与えないよう、ゆっくりと静かに降ろしてください。
車いすの破損や故障の原因となります。
-  シンナー、ベンジン等の溶剤は、使用しないでください。
製品を傷める恐れがあります。
-  キャスタ・駆動輪を他のサイズや種類に変更しないでください。
-  トランスファーボードを利用する場合、必ず衣類を着用してご使用ください。
直接皮膚が触れた状態でボード上を移動するとケガをする恐れがあります。
-  トランスファーボードを利用する場合、ベッドと車いすの座面の高さは、できるだけ同じにしてください。

各部のなまえ



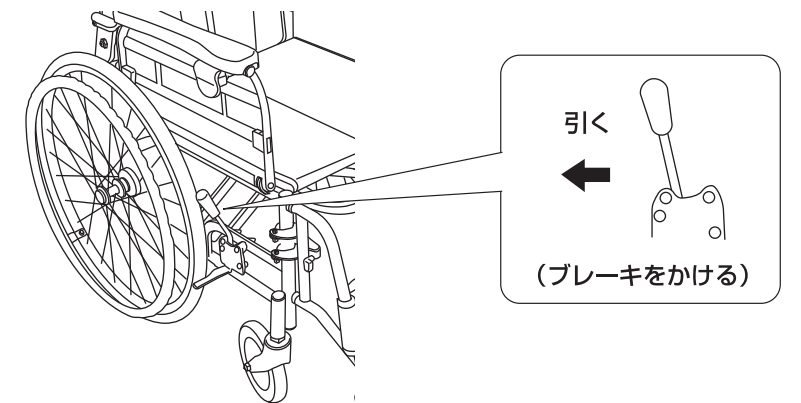
使いかた

ブレーキのかけかた

⚠ 警告	<ul style="list-style-type: none"> ・ 乗り降りの際および停止時には、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。ブレーキがかかっていないと車いすが動きだし、衝突や使用者の転倒事故につながる恐れがあります。ブレーキレバーは、ブレーキレバーが止まる位置まで確実に操作してください。 ・ 乗り降りの際にはブレーキレバーに体重をかけないでください。レバーが破損・変形し、転倒する恐れがあります。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。坂道等の傾斜がある場所では、駐車用ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒など事故につながる恐れがあります。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ タイヤの摩耗に注意してください。タイヤが摩耗すると、駐車用ブレーキが効かなくなる場合があります。ブレーキの効き具合が悪いときは、販売店に調整の依頼をしてください。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 走行中に駐車用ブレーキを使用しないでください。転倒などの事故につながる恐れがあります。

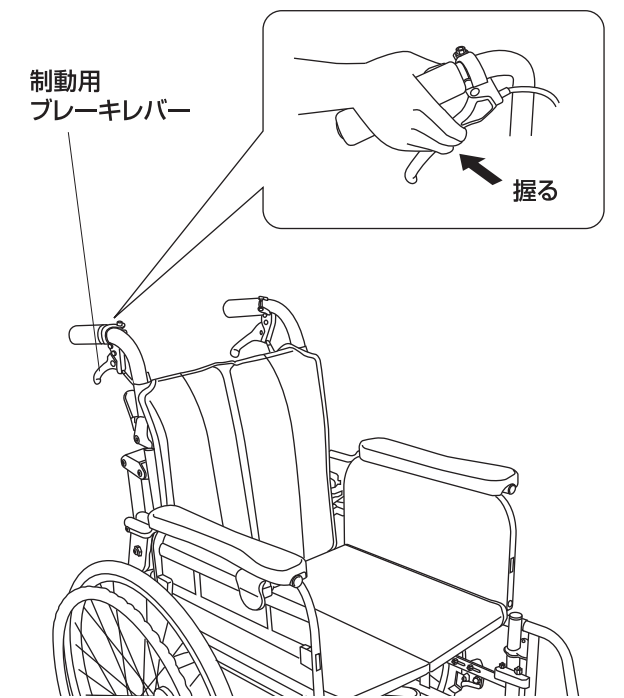
● 駐車用ブレーキのかけかた

使用者が、左右のブレーキレバーを手前に引いてかけます。
ブレーキレバーを前方に戻すと解除されます。



● 制動用ブレーキ(介助用ブレーキ)のかけかた

⚠ 危険	<ul style="list-style-type: none"> ・ スピードを出さないでください。スピードが出ているときに急カーブを走行したり、急ブレーキをかけたりすると、転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。 ・ 急な下り坂で介助するときは、後ろ向きにゆっくり降りてください。また、制動用ブレーキを使いスピードを落としてください。
	<ul style="list-style-type: none"> ⚠ 警告 <p>制動用ブレーキは、介助者がブレーキレバーを左右同時に握ってかけてください。転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。</p>
⚠ 注意	<ul style="list-style-type: none"> ・ プレーキワイヤーは、安全のため定期的に交換してください。(交換の目安:1年に1度)



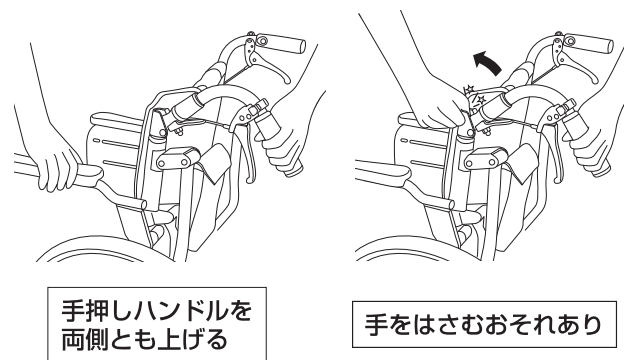
開きかた/たたみかた

△注意

- ・シートパイプを握って押し下げないでください。手をはさんでけがをする恐れがあります。
- ・必ず駐車用ブレーキをかけて操作を行ってください。
- ・背折れジョイントの開口部に手や指を近づけないでください。

● 開きかた

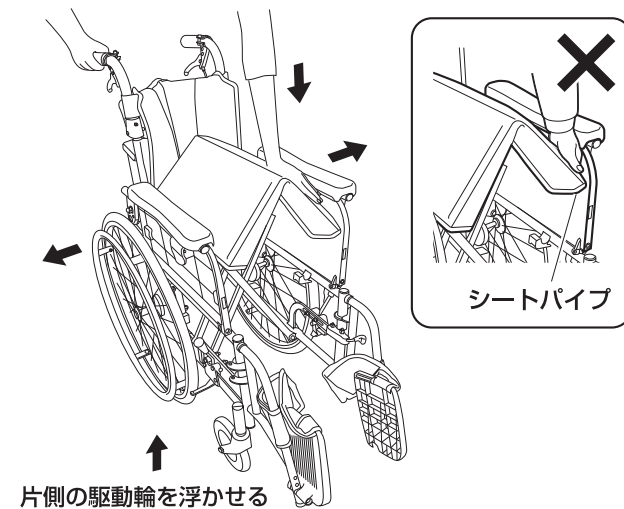
- 1** 手押しハンドルを両側とも上げます。
* 開口部に手や指を近づけないでください。



- 2** 手押しハンドルを持って、軽く左右に開きます。

- 3** 片側の駆動輪を少し浮かせて、その状態を保ちます。

- 4** 駆動輪を浮かせていない側の座シートの表面を、手の平で押して開きます。
* シートパイプを握らないでください。

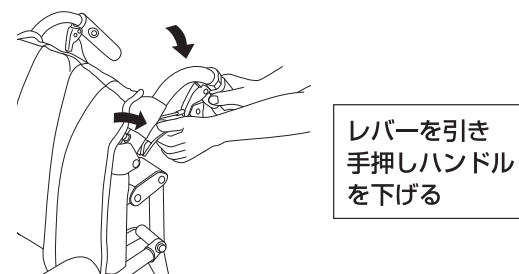


- 5** 背アウターシートのフラップ裏面の面ファスナーをインナー座シートに貼り合わせ、フラップ上面の面ファスナーと座アウターシート裏面の面ファスナーを貼り合わせます。

● たたみかた

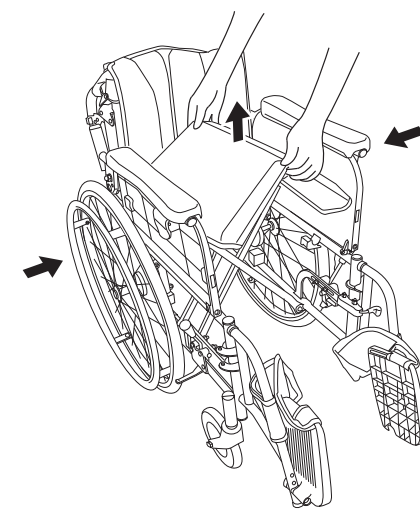
- 1** 車いすの駐車用ブレーキを両輪にかけておきます。

- 2** 図のように、手押しハンドルを両側とも下げます。



- 3** フットサポートを両側とも上げます。

- 4** バックサポートとシートの面ファスナーを外し座のシートの前後を持ち上げて、シートパイプを引き寄せます。



- 5** 左右のアームサポートを外側から内側に押し、座のシートを折りたたみます。

* 背アウターシート、座アウターシートを取り外して折りたたむとより小さくたたむことができます。

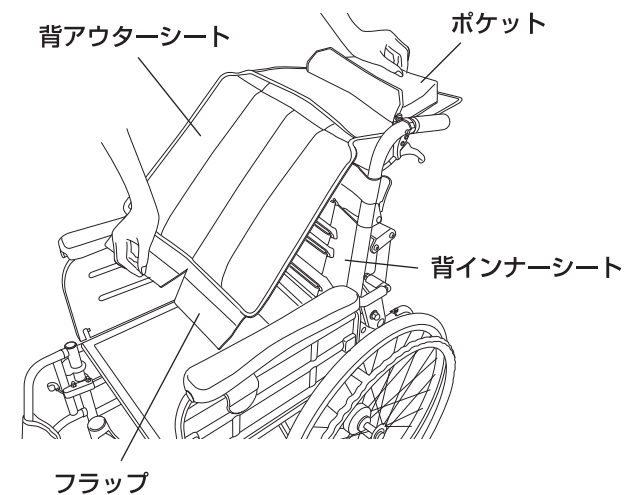
シートの取り付け/取り外し

△注意 ・面ファスナーに糸くず、汚れ等がついた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。

● 取り付け

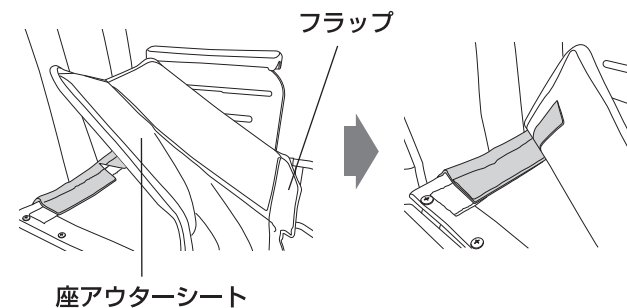
- 1** 背アウターシートのポケット部を後ろにし、折り目部分が上にくるように車いす本体にあわせませす。

- 2** 背アウターシートと背インナーシートの面ファスナーを貼り合わせます。

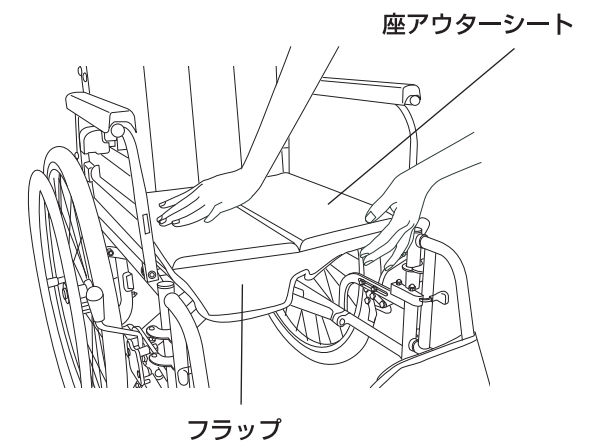


背アウターシートのフラップ裏面の面ファスナーをインナー座シートに貼り合わせます。

- 3** 座アウターシートのフラップを前側にし、背アウターシートフラップの上に座アウターシート裏面の面ファスナーを貼り合わせます。

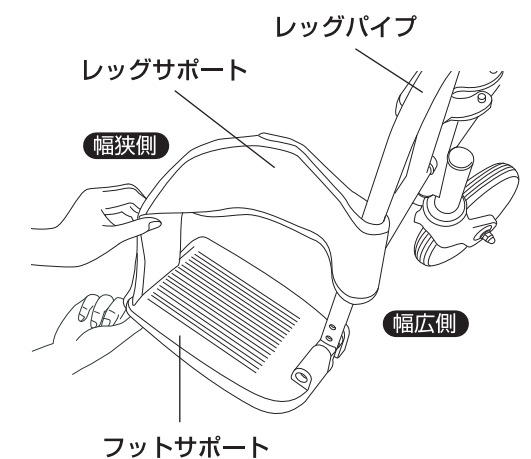


- 4** フラップ部を折り曲げインナー座シート裏面の面ファスナーと貼り合わせます。



- 5** レッグサポートの幅広側の端を車いす本体のレッグパイプに巻きつけ、面ファスナーを貼り合わせます。

- 6** レッグサポートの幅狭側の端をフットサポート先端の前後どちらかの穴に差し込みます。



- 7** 穴に通したレッグサポートの端を折り返して面ファスナーを貼り合わせます。

- 8** 反対側も同様の作業を行います。

● 取り外し

取り外しは逆の手順になります。

アームサポートの跳ね上げ

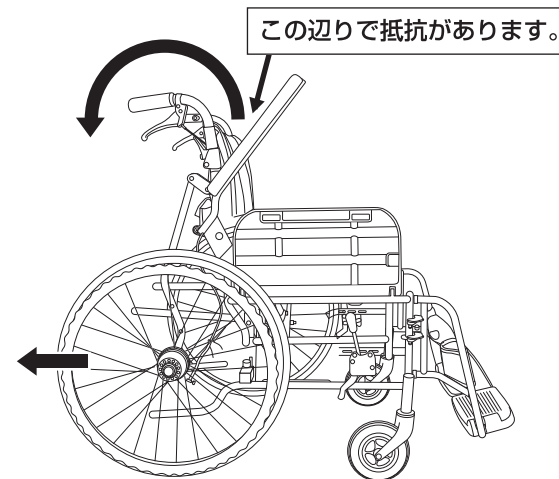
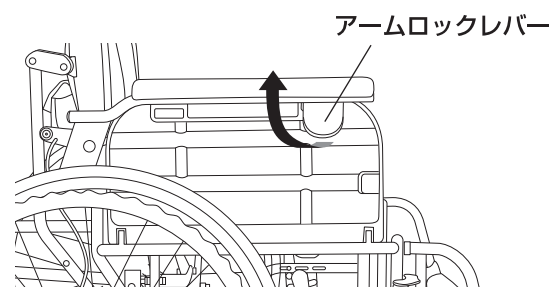
アームサポートを引き上げるだけで駆動輪が後ろに移動し、側面が開放されて横からの乗り降りができます。

⚠警告	<ul style="list-style-type: none"> ・アームサポートを持って車いすを持ち上げないでください。ロックが外れて使用者が転倒、落下すると、事故やけがにつながるおそれがあります。 ・アームサポートを跳ね上げて乗り降りする際は、アームサポートを最後まで跳ね上げ、跳ね上げた側の駆動輪が固定されていることを確認してください。 ・アームサポートの跳ね上げ、下ろし操作を行なう際は、アームサポートパイプ・駆動輪の可動部に身体・衣服等をはさまないように注意してください。 ・アームサポートを戻した後は、完全にロックされたことを確認してください。 <p>使用中に外れると、事故やけがにつながる恐れがあります。</p>
-----	---

⚠注意	<ul style="list-style-type: none"> ・アームサポートを跳ね上げる際は、車いすの後方に人や障害物がないこと確認してください。 ・アームサポートの跳ね上げ、下ろし操作を行なう際は、駆動輪に衣服や身体が巻き込まれないように注意してください。
-----	--

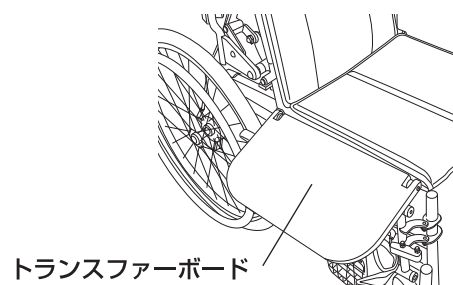
● 跳ね上げかた

- 1 両側の駐車用ブレーキをかけます。
(ブレーキのかけかた参照 P7)
- 2 アームロックレバーを外側にひきます。
- 3 アームサポートを持ち上げます。



アームサポートを持ち上げると駆動輪が後ろへさがります。
アームサポートの跳ね上げ操作途中で抵抗がかかりますが、その抵抗をさらに跳ね上げることでブレーキがかかります。
跳ね上げた側の駆動輪が固定されていることを確認してください。

- 4 トランスファーボードを外側に倒してください。



戻しかたは逆の手順になります。

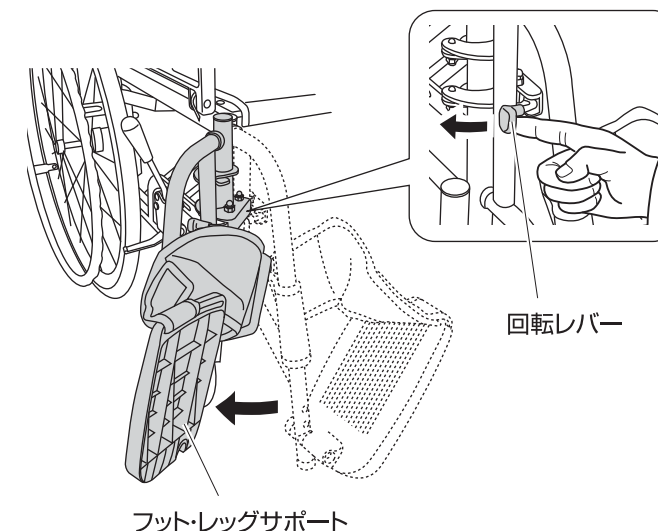
フット・レッグサポートの開閉・取り外し

フット・レッグサポートをワンタッチで開閉することができます。車いすへの乗り降りの際、フット・レッグサポートが脚にぶつかることなくスムーズに移乗することができます。

⚠警告	<ul style="list-style-type: none"> ・フット・レッグサポートの開閉・取り外し・取り付けは、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行なってください。 ・フット・レッグサポートを持って車いすを持ち上げないでください。 ロックが外れて使用者が転倒、落下すると、事故やけがにつながるおそれがあります。 ・開閉時、フック部に身体や衣服が引っ掛からないように注意してください。 けがをする恐れがあります。 ・乗り降りの際、スイングアウト部に身体や衣服が引っ掛からないように注意してください。 転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。
-----	--

● 開きかた

回転レバーを矢印の方向に引き、そのままフット・レッグサポートを外側に回転させて開きます。



● 閉じかた

フット・レッグサポートを閉じるときに、指をはさまないように注意してください。

フット・レッグサポートを内側に回転させて閉じます。
閉じた後、フット・レッグサポートが完全にロックされたことを確認します。

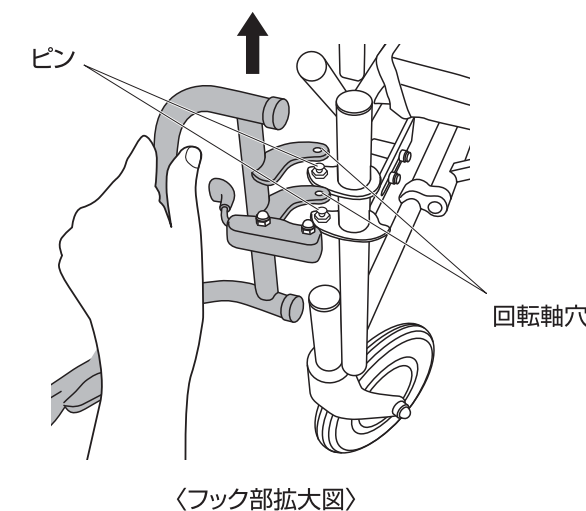
● 取り外しかた

フット・レッグサポートを外側に開いた状態で、垂直に引き上げます。

● 取り付けかた

車体フレーム側の2つのピンにフット・レッグサポート側の回転軸穴(2箇所)を合わせてはめ込みます。
はめ込み後は内側へ回転させ、ロックします。
(閉じかた同様)

*フット・レッグサポートを開いた状態で、フット・レッグサポートに力を加えないでください。金具が変形し故障の原因となります。



フット・レッグサポートを開く前にトランスボードを外側に倒しておくと、フット・レッグサポートがトランスボードに干渉し完全に開きません。

アームサポートを上げた場合の乗り移り

警告

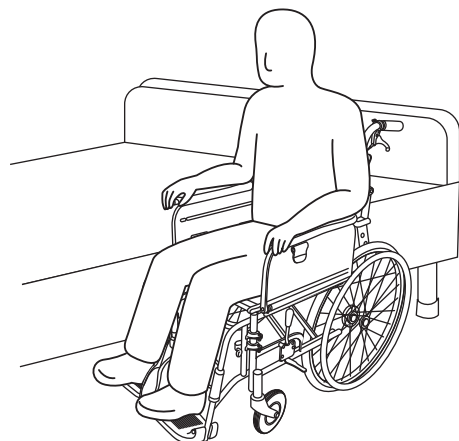
- ・車いすからベッド、またはベッドから車いすへ移動をする際は、車いすをベッド側面にできるだけ寄せて、トランスファーボードとベッドマットとの重なりを多く（トランスファーボードの約 1/3 の 60 mm 以上）とるようにしてください。
- ・トランスファーボードを利用する場合、移乗時にトランスファーボードのたわみとベッドのクッションにより多少不安定になります。転落の危険性もありますので、移動は慎重に行ってください。
- ・トランスファーボードを利用する場合、移乗時に、フットサポートに足を乗せたまま踏ん張らないでください。転倒の恐れがあります。安全のため、フットサポートを外すか起こしてから移動してください。
- ・トランスファーボードを利用する場合、マットレスがふわふわし過ぎず、端座位が安定するものをご使用ください。（エアマットレスの場合は空気を抜いて移乗してください。）
- ・アームサポートを跳ね上げて乗り降りする際は、アームサポートを最後まで跳ね上げ、跳ね上げた側の駆動輪が固定されていることを確認してください。

注意

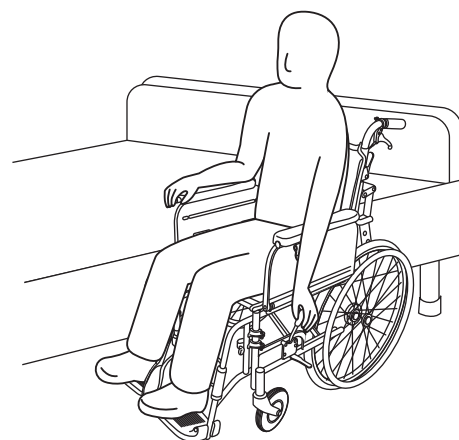
- ・トランスファーボードを利用する場合、ベッドと車いすの座面の高さは、できるだけ同じにしてください。
- ・トランスファーボードを利用する場合、必ず衣類を着用してご使用ください。直接皮膚が触れた状態でボード上を移動するとケガをする恐れがあります。

● 車いすからベッドへの移りかた

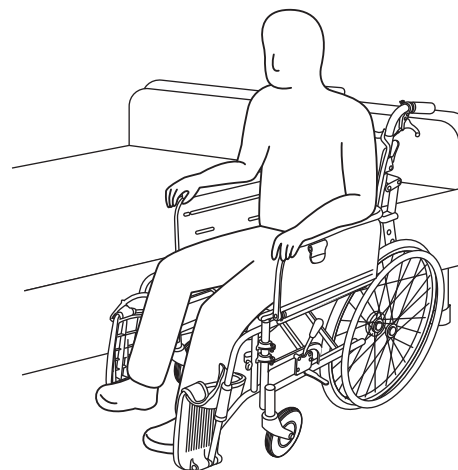
- 1** 車いすとベッドを並行にならべます。車いすとベッドの距離は、できるだけ近づけておいてください。



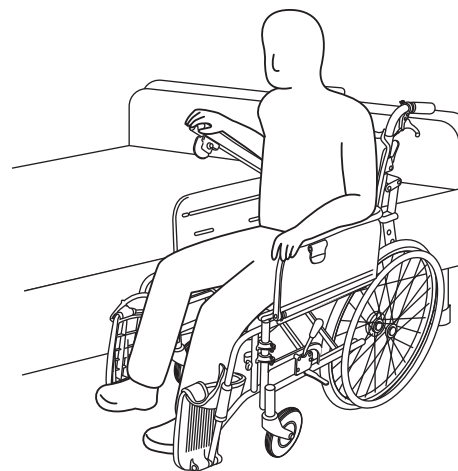
- 2** 駐車用ブレーキのレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。（ブレーキのかけかた P7 参照）



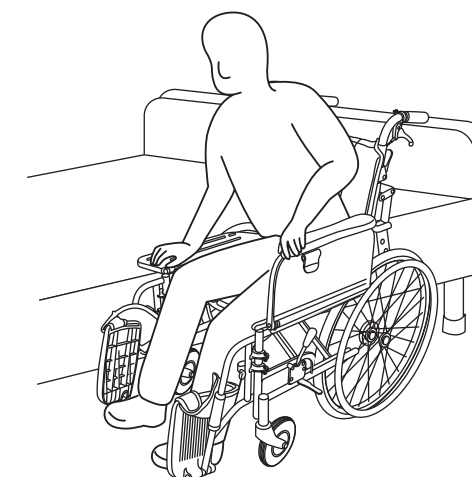
- 3** フットサポートを両側ともあげます。ベッド側のフットレッグサポートを外すと足元のスペースがより確保され楽に移ることができます。（フット・レッグサポートの開閉・取り外し P11 参照）



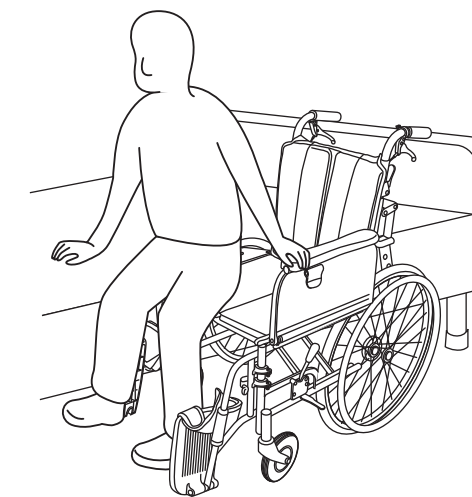
- 4** アームロックレバーのロックを解除し、アームサポートを上げると徐々に駆動輪は後ろに下がります。アームサポートを上げきると、後ろに移動した駆動輪にブレーキがかかります。（アームサポートの跳ね上げ P10 参照）



- 5** トランスファーボードをベッドの上に倒します。（アームサポートの跳ね上げ P10 参照）



- 6** そのまま体をずらしていきます。



● ベッドから車いすへの移りかた

車いすからベッドへの移りかたと逆の手順になります。

その他の乗り降り

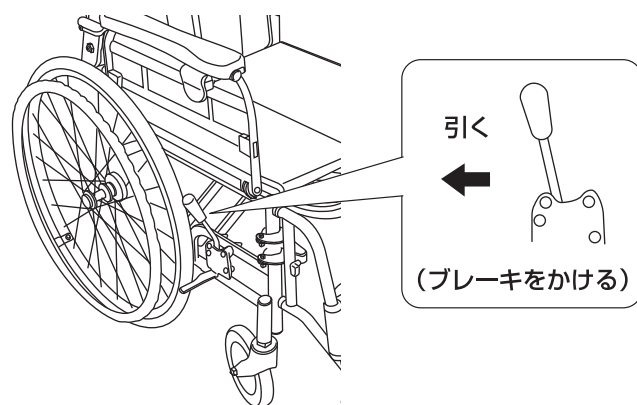
以下の方法はほんの一例です。利用者の症状・使用環境にあわせてご利用ください。

警告

- ・乗り降りは、必ず平坦なところで行ってください。
- ・乗り降り時は、必ず駐車用ブレーキをかけてください。車いすが動きだし大変危険です。
- ・車いすに乗り移る際、フットサポートの上には乗らないでください。転倒し、けがをする恐れがあります。
- ・上げたフットサポートに足が当たらないよう注意してください。けがをする恐れがあります。

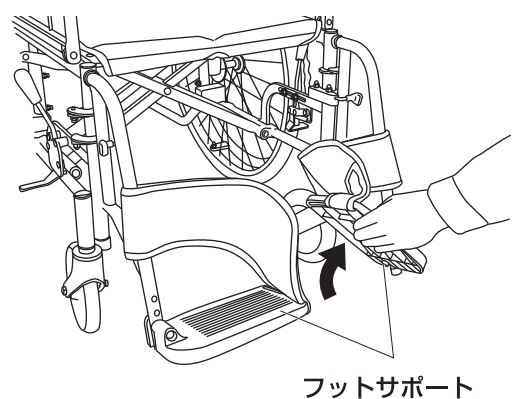
● 乗るかた

- 1 駐車用ブレーキのレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。

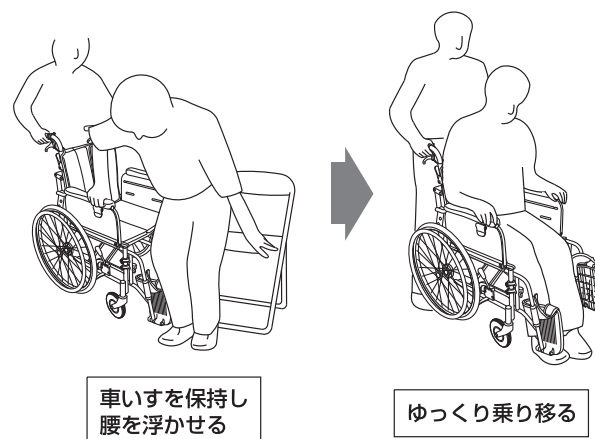


- 2 フットサポートを両側とも上げます。

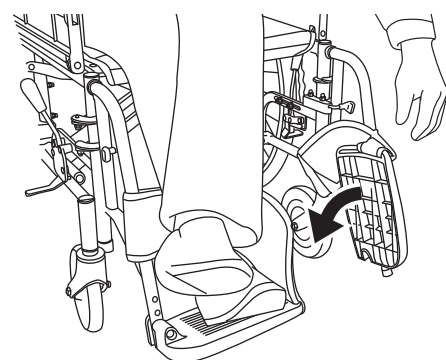
- *フットサポートの上には乗らないでください。転倒し、けがをするおそれがあります。
- *上げたフットサポートに足が当たらないよう注意してください。けがをするおそれがあります。



- 3 車いすをしっかりと保持しながら、ゆっくり乗り移ります。



- 4 フットサポートを降ろして両足を乗せます。



● 降りかた

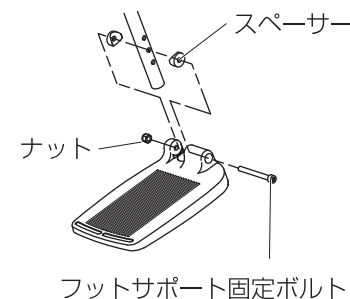
「乗るかた」と逆の要領で行なってください。

各部の調節のしかた

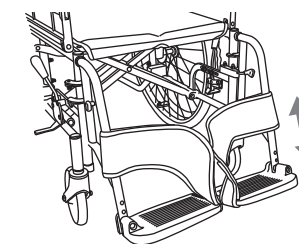
軽量フットサポート

フットサポートは 20mm 間隔で 3 段階の高さに調節することができます。

- 1 駐車用ブレーキレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。
- 2 フットサポートを下ろした状態で、フットサポート固定ボルトを外します。



- 3 脚の長さに合わせてフットサポートの高さを調節します。



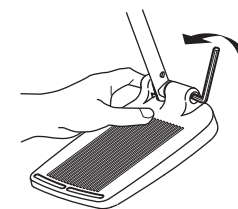
- 4 希望の高さの穴を決めたら、固定ボルトを差し込み、ナットと共に締め付けて固定します。

*反対側も同様に作業を行ってください。

フットサポート調節のコツ

取り外すとき

- 1 六角レンチ等を使ってフットサポート固定ボルトを反時計回りに回します。反対側からナットが飛び出してきたら、ナットを指で押さえておきます。



注意

ボルトがナット側に突き出ているときは、ナットを指で押さえているとけがをする恐れがありますのでご注意ください。

- 2 フットサポート固定ボルトが空回りをはじめたら、車いすを傾けてボルトとナットを取り外します。

取り付けるとき

- フットサポート固定ボルトの位置合わせをするときは、穴をのぞいてそこにボルトを挿入してください。
- フットサポートは、片手で回転できるくらいの固さを目安に取り付けてください。このとき、フットサポート固定ボルトを締めすぎないように注意してください。

バックサポートの張り具合調節

注意

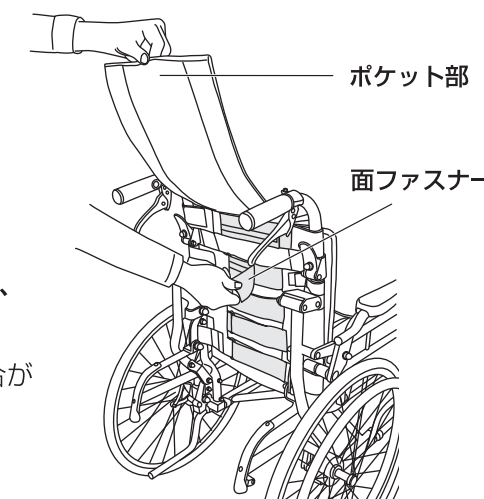
- ・面ファスナーに糸くず、汚れ等がついた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。
- ・面ファスナーの張り具合を過度に強くしますと、十分に車いすが開かなくなり、フレームの変形の原因になります。

*バックサポートの張り具合を随時チェックし、必要に応じて調節してください。

- 1 駐車用ブレーキレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。
- 2 ポケット部をめくり上げます。
- 3 面ファスナーをはがし、バックサポートの張り具合を調節した後、もう一度面ファスナーをしっかりと貼り合せます。

*手でバックサポートを押し、確実に固定されていて、張り具合が適切であることを確認してください。

- 4 ポケット部を元に戻します。



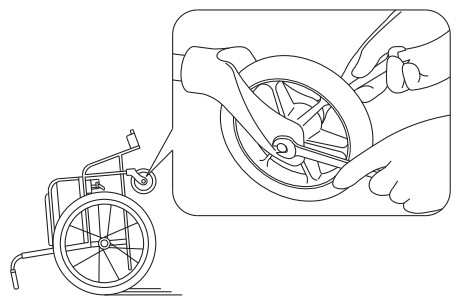
保守・点検

乗車前には必ず下記の事項を点検・整備し、常に安全な状態で使用してください。

* 修理・調整は必ず販売店へ依頼してください。

△警告

キャスト・駆動輪・駐車用ブレーキ等のゆるみを点検し、ゆるんでいるときは増し締めをしてください。



・使用者の脚の長さに合わせて、フットサポートを適切な高さに調節してください。

・車いすは熱気、湿気に弱いため、湿気の多い所、外部、自動車内での長期放置や、水のかかる場所には放置しないでください。

● 消耗品、交換部品の確認

△注意 交換時期を過ぎての使用は、転落、転倒、衝突などの事故につながる恐れがあります。

それぞれの部品が交換時期になったときは、お早めに交換してください。
新しい部品に交換する際は、お買上げの販売店へご連絡ください。

消耗品・交換部品

品名	交換時期
駆動輪	タイヤの表面に溝がなくなったとき。
キャスト	表面の摩耗が著しいとき。しっかり締め付けても車輪ががたつくとき。
各シート	ほつれ、切れ目が発生したとき。 ひどく汚れたとき。 面ファスナーの接着が弱くなったとき。
ワイヤー	ワイヤーにほつれ、サビが発生したとき。
トランスファーボード	キズや割れがみられたとき。

お手入れ・保管について

● フレームのお手入れ

- ・フレームの汚れは、タオルかスポンジに中性洗剤を含ませて拭き取ってください。拭き取った後は、乾いた布で水分を取り除いてください。
- ・水などがかった場合は、乾いた布で水分を取り除いてください。
- ・錆を避けるため、湿気の高い場所や室温の上がる場所には保管しないでください。

● シートのお手入れ

- ・シートが汚れた場合は、中性洗剤を染み込ませた布で汚れを拭き取った後、水で濡らした布で洗剤を拭き取り、乾かしてご使用ください。
- ・面ファスナーに糸くず、汚れ等がついた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。

● アームサポート、グリップ等の樹脂部品のお手入れ

樹脂部品の汚れは中性洗剤で落としてください。

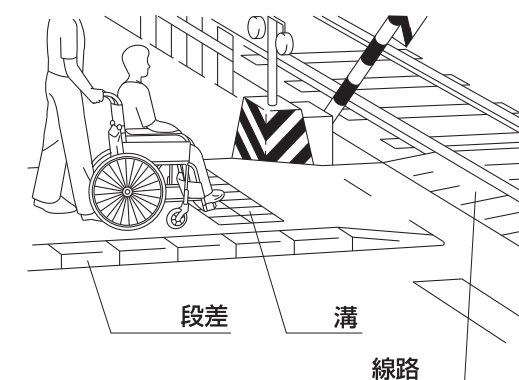
△注意 シンナー、ベンジン等の溶剤は使用しないでください。製品を傷める恐れがあります。

● 保管・収納について

- ・収納スペースが少ないときは、座シート、バックサポートを折りたたんで保管してください。
- ・錆を避けるため、湿気の高い場所や室温の上がる場所には保管しないでください。

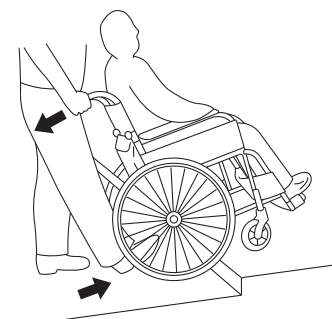
走行上のご注意

- ・車いすは歩行者として扱われています。車道を通らず、必ず歩道を通ってください。
- ・歩道の段差や凹凸のある路面を走行するときは、前のめりにならないよう充分注意してください。
- ・溝や踏切の線路による落輪、キャストの挟み込みには充分注意してください。
- ・踏切を通過するときは、まわりの安全を確認した上で、停車せずに通過してください。
- ・傾斜地ではスピードが出やすいため、走行には充分注意してください。



段の上がりかた

- 1 足元のテッピングレバーを押し出し、手押しハンドルを手前に引くようにして、キャストを段の上にあげます。



- 2 駆動輪を段に突き当て、車いすを押しながら手押しハンドルを持ち上げます。
*無理な力による段差の乗り越えは、フレームの破損につながります。

△注意

テッピングレバーを操作する足を駆動輪スライドパイプにぶつけないようご注意ください。

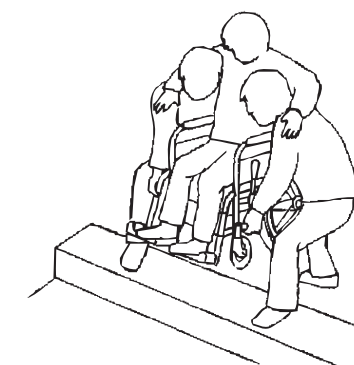


車いすに乗ったまま持ち上げる場合

△警告

持つ箇所によっては破損や事故につながる恐れがあります。アームサポート、背折れジョイント、フット・レッグサポート、フットサポートなどは持たないでください。

車いすに乗ったまま持ち上げるときは2人以上で行ない、使用者の上半身を支え、フレーム下部を両側からしっかり持って持ち上げます。



段の下りかた

手押しハンドルとティッピング部分で車いすを支えながら、ゆっくり段を下ります。

- *無理な力による段差の下りかたは、フレームの破損につながります。
- *段差のあるところを下るときは、車いすに衝撃を与えないように、ゆっくり下ってください。車いすの破損や故障の原因となります。

困った時には

車いすをご使用されていて「故障かな」と思われましたら、販売店へ連絡するまえに下記項目を確認してください。

症状	確認点	対処
車いすがまっすぐ走らない。斜行する。	路面が傾斜していませんか。 車いすは、傾斜面では低い方へキャストが流れる特性があります。	低い方へ曲がらないように車いすを操作してください。 〈自走の場合〉 傾斜面の低い側に当たる駆動輪をより強く回してください。 〈介助者が押す場合〉 傾斜面の低い側に当たる手押しハンドルに、より力を入れて押してください。
	キャストの回転に左右差がありませんか。 キャスト軸の回転がスムーズですか。	ご購入先あるいは弊社各営業所までご連絡ください。
	キャスト・駆動輪の計4輪がきちんと接地していますか。	
駐車用ブレーキが効かない。	駆動輪のタイヤは摩耗していませんか。	ご購入先あるいは弊社各営業所までご連絡ください。
	駐車用ブレーキのタイヤ押えが駆動輪にきちんと当たっていますか。 駐車用ブレーキがガタついていませんか。	
制動用ブレーキ(介助ブレーキ)が効かない。	ワイヤーチューブが、折れ曲がったり、引っ掛かったりしていませんか。	インナーワイヤーがスムーズに動くように、ワイヤーチューブの取廻しを修正してください。改善がみられない場合は、ご購入先あるいは弊社各営業所までご連絡ください。
	ワイヤーが伸びたり、切れたりしていませんか。	ご購入先あるいは弊社各営業所までご連絡ください。
異音がる。	本体や駆動輪とオプション品、アクセサリなどとの干渉はしていませんか。	車いすに取り付けて使用するカバンなどは駆動輪など回転する箇所と干渉しないようにしてご使用ください。
	可動部分の錆び・摩耗・汚れ・油汚れなどによっておこる摩耗音がしていませんか。	ご購入先あるいは弊社各営業所までご連絡ください。
	ボルト類の緩み等がおきていませんか。	
	フレームに歪みが発生していませんか。	
車いすが開かない。	バックサポートの張り具合を締めすぎていませんか。	バックサポートの張り具合を調整してください。
車いすがたためない。	バックサポートとシートの面ファスナーが貼り合わせたままになっていませんか。	バックサポートとシートの面ファスナーを外してください。

ご使用期間とアフターサービスについて

●ご使用期間について

本機は、標準的な使用環境と使用条件下で、取扱説明書にしたがって正しく使用した場合の標準使用期間を6年と定めています。この期間を超えて使用されますと、機能部品はもとより主要構造材も、経年劣化により破損する恐れが出てきます。使用期間が6年を超えた製品については、弊社同等製品への買い替えをお勧めいたしますが、引き続いての使用をご希望される場合は、必ず弊社各営業所にご連絡のうえオーバーホールを受けてから使用してください。

詳細につきましては弊社各営業所までお問い合わせください。

注1：標準使用期間と保証書に記載された無償修理の保証期間とは異なるものです。

注2：オーバーホールは、その後の無償修理の保証を約束するものではありません。

注3：お客様の強いご希望で、使用期間終了後オーバーホールを受けずに本機を使用される場合は、本機を使用中に発生した、いかなる不具合ならびに事故に対して、弊社はその責を負いません。

●修理を依頼される時は

修理を依頼される前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、再度ご点検の上、なお異常がある場合、ご購入先または記載の弊社各営業所までご連絡ください。

ご連絡いただきたい内容

ご住所・ご氏名・電話番号
商品名・型番・製造番号・ご購入先・お買い上げ日
故障、または異常の内容（できる限り詳しくお願いいたします。）

仕様

単位mm

フレーム	アルミ	全長	990(1220) ※1
背アウターシート	生地：塩化ビニル、ポリエステル クッション：発泡ウレタン	全幅	630
背インナーシート	ナイロン	全高	900
座アウターシート	生地：塩化ビニル クッション：発泡ウレタン	座面幅	400
座インナーシート	ナイロン	前座高	465 ※2
レッグサポート	塩化ビニル	後座高	440 ※2
アームサポート	ウレタン	座面奥行	400
サイドガード	樹脂	バックサポート高	415
グリップ	エンボスグリップ	駆動輪径	22×1(in)
バックサポート	テンション	キャスト径	6(in)
背折れ	あり、レバー式	アームサポート高	230 ※3
フットレッグサポートタイプ	開閉式(スイングアウト)	全幅(折りたたみ時)	385
フットサポート	軽量ステップ 黒	全長(折りたたみ時)	990(750) ※4
キャスト	6" (黒)ソフトフォーミング	全高(折りたたみ時)	780
タイヤ	ハイポリマータイヤ	重量	19(kg)
制動用ブレーキ	あり	耐荷重(最大耐荷重)	100kg(積載物を含む)
ハンドリム	ブラハンドリング	フレーム材質	アルミ合金(A7003)
駐車用ブレーキ	引き式タッグル		

※1 ()内駆動輪移動時 ※2 クッション厚10mm含む

※3 クッションからアームサポート上面まで

※4 ()はフットサポート折りたたみ時